

補助 藝術と技術の対話(DAT) (実施団体:株式会社イッカク)

目的・目標

情報化とグローバル化、AIをはじめとする新たなテクノロジーの進展を踏まえ、デジタルメディアによる新たなアートフォームの形成を目指すプロジェクト。国際競争力で不可欠となる文化的差異を的確に読み解き、独自の文脈を発信する力を育むため、「コンセプト開発能力」と「展覧会策定能力」を実践を通じて育成する。

概要

コンセプトを読み解き、開発するための基礎として、広く一般を対象とする①講座を開催。さらに、育成対象者を公募・選出し、②ブートキャンプと国内展覧会、③海外展覧会と国際シンポジウムを段階的に実施。ワーキンググループや現地リサーチ、調査研究を並行し、展覧会をOJT（実地研修）の場とすることで、アート&テクノロジー分野の新たな教育基盤の形成を行う。

(区分・分野)
デザイン等(分野横断的新領域)

(対象となる職種)
新規事業開発の従事者・美術博物館等のコーディネーター、キュレーター、デジタルクリエイティブ分野のディレクター、研究者、アーティスト等

(育成人数)
12名/3年

3年目までの取組

【1年目】「コンセプト開発能力」の基礎として、アート&テック分野の歴史・思想を学ぶ講座を開催。

【2年目】公募・選出した育成対象者15名程度を対象に、展覧会の企画・実施のためのブートキャンプを実施。定期的なグループワークを経て、国内にて展覧会を開催する。

【3年目】国内展覧会をケーススタディとし、定期的なグループワークを経て、海外展開の実証としてニューヨークで展覧会を開催。



成果目標 (見込)	目標値
コンテンツ創造・海外展開のための実践的な育成プログラムの開発・実装数	3年目：23件 5年目：39件
国内外の教育機関・専門機関・企業・団体等との連携数	3年目：20件 5年目：30件
育成プログラムの参加者が世界的に認知されている海外の芸術祭・文化施設等へ出品・参画し高い評価を受けた件数	3年目：10件 5年目：25件
育成プログラムの実証に参加した人数	3年目：600人 5年目：1000人

5年目までの取組

第1期（3年目）までの成果・評価を反映し、西欧中心主義とは異なる文化的な背景における「コンセプト開発能力」の習得を行い、アジア域内での海外展覧会開催を通して実証。

海外展覧会をケーススタディとし、開発されたコンセプトを海外美術館やフェスティバルと協働した国際展、成果をまとめた出版および国際シンポジウムへと展開し、国際的な活躍・評価の向上を図る。

中核となる指導者等

・エグゼクティブディレクター：藤幡正樹（メディアアーティスト）

1996年に日本人初となるアルス・エレクトロニカ・ゴールドニカ受賞。慶應義塾大学環境情報学部や東京藝術大学大学院映像研究科の立ち上げに関わり、UCLAをはじめとした海外でも教鞭を執る。2010年文化庁「芸術選奨」文部科学大臣賞受賞。

・プロデューサー：廣田ふみ（株式会社イッカク代表取締役）

国際的な場での実践の取組例

- ・国内展覧会
2027年1月～2月（札幌）を予定
- ・海外展覧会
2027年10月（ニューヨーク）を予定
- ・国際シンポジウム
2028年2月（東京）を予定



実施体制

藝術と技術の対話(DAT) (Dialogue on Art and Technology (DAT))体制図



|| ・助成

文化芸術活動基盤強化基金（クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践））
| 独立行政法人日本芸術文化振興会



DATプロジェクトチーム

事務局

Ikac
株式会社イッカク

|| ・主催・企画制作
|| ・プロデュース

- イベント運営
- ウェブディレクション
- 編集・アーカイブ
- デジタルマーケティング

エグゼクティブディレクター

メンター

- ・ 企業連携担当
- ・ 展覧会プロデュース担当
- ・ 普及・ファシリテーション担当
- ・ 海外連携担当

募集

受講者

|| ・連携・協力

企業

教育機関

国内文化施設

海外専門機関

育成プログラム

公募・選考

育成対象者

講座

調査研究

展覧会

シンポジウム

プログラムの公表による
持続的なネットワークの形成

企業・団体、クリエイター
等への実践、知識・ノウ
ハウの還元

コンテンツの海外展開に必
要となるプロデューサー人
材の確保

社会課題に向けた批評分析
と創造的アプローチを両立
する多様な人材の確保

文化施設等におけるニュー
メディアを踏まえたストラ
テジーの導入